

2010年7月13日

(これは、ロンドンにて6月28日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータードPLC(その子会社を含む。以下、「当行グループ」、または、「グループ」と称します)は、今年度6月中間期末に先立ち、アナリストおよび投資家の皆様を対象とした説明会を予定しておりますが、当報告書においては説明事項詳細についてご説明させていただく所存です。

当行グループ最高経営責任者であるピーター・サンズのコメントは以下のとおりです。
「スタンダードチャータードは、2010年度上半期においても引き続き堅調な業績を収め、株主の皆様へ安定した配当の継続が可能となりました。事業展開する各地域国市場の経済状況は改善に向かっており、事業活動も活発化しています。しかし、昨今の不安定な市場の動きがその景況感にわずかながら影響を及ぼしています。それにもかかわらず、当行グループの業績は好調であり、市場シェアの拡大につながっています。これを踏まえて、私どもは、今後も、銀行業の基本原則ともいえる資本、流動性、リスク、コスト管理を軸とした、慎重な経営姿勢を貫く所存です」

以下、比較数値につきましては、特に明記のない限り、すべて年次ベースで作成されています。

損益勘定

第1四半期の中間経営報告(IMS)において報告致しましたとおり、グループ業績は非常に好調だった年度当初の業績をベースに、引き続き堅調に推移しています。5月末時点の営業収益ならびに税引き前利益は、2009年4月に計上したTier2証券の買戻しにより発生した2億4,800万米ドルの特別利益控除後で、前年同期を上回っています。

今年上半期の営業収益は、報告ベースで前年同期以降、ほぼ横ばいで推移していますが、昨年下半年から2桁台の伸びを予想しています。とりわけ、コンシューマー・バンキング部門の収益、ならびに、ホールセール・バンキング部門の顧客部門収益が好調でしたが、当該収益は自己取引による収益が低下したため、一部吸収されています。

グループ全体としては、預金利鞘が前年比で僅かに減少した一方で、融資利鞘の低迷は、当初見込みより長引くかたちとなっています。

収益の成長機運を支えるため、当行グループはコンシューマー・ホールセール・バンキング両部門への投資を継続しつつも、厳しいコスト管理を実施してまいりました。しかしながら、2010年度上半期におけるコスト増加率は、特にホールセール・バンキング部門において、前年同期比で収益の伸びを大幅に上回ると予想されます。これは、前年上半期における投資の差し控えとともに、自己取引による高収益計上に拠るものです。一方、今年上半期においては、自己取引による収益が減少傾向にある中、事業への投資を実施してまいりました。

両事業部門の不良債権残高については、極めて低めに抑えられています。

財務諸表(バランスシート)

第1四半期中間経営報告(IMS)において述べたとおり、両事業部門のアセット・クオリティ(資産の質)には、昨年末から引き続き改善がみられます。また、バランスシート上、十分に分散化された慎重な投資、不良資産の比率は低く、南ヨーロッパ諸国におけるソブリン債の直接的エクスポージャはありません。

当行グループは、高い流動性を保持するとともに、引き続き預金増加の傾向にあります。預貸率(A/D率)は、昨年末ポジションから概して安定しており、今後も引き続き慎重な管理姿勢を貫く所存です。また、昨年末ポジションから継続して潤沢な資本力を維持し、リスク加重資産(RWA)に対しては慎重な管理体制を続けます。

資金調達については、堅実な資金構成を維持しています。2010年度の満期償還に必要となる資金はすでに全額調達済みであり、今後数年間にわたり、借り換えの必要性はほとんどないといえるでしょう。当行グループの銘柄には相変わらず旺盛な需要があることから、4月・6月のTier2資本証券ならびに優先証券の発行に拠り、40億米ドル超の資金調達達成となりました。

また、6月にはムンバイ証券取引所ならびにインド国立証券取引所において、インド預託証券(IDR)の上場を完了致しました。

業況

コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門では戦略的な再ポジショニングが引き続き順調に進行し、年初より5ヵ月間にわたるグループ全体の営業収益ならびに税引き前利益への貢献度は前年同期を上回りました。

上記IMSで示唆しましたとおり、コンシューマーバンキング部門における営業収益は、引き続き回復局面にあります。今年上半期の収益は、前年同期と比較し大幅な伸びを示しており、アンダーラインベースで昨年下半年より僅かながらも増加すると予想されます。

商品面では、住宅ローン事業の収益が前年同期比ではかなり好調であったものの、昨年下半年と比較し、概ね横ばいとなりました。これは競争激化により価格に影響があり、販売量の大幅な伸びが吸収された結果です。また、預金総額の増加を利幅減少が相殺していることから、預金収益は減少傾向となっています。ウェルスマネージメント事業の手数料収益は前年同期比で大幅な伸びを示しましたが、この数週間においては、欧州市場の混乱から投資家の警戒感が高まり、その影響がすでに表れ始めています。

中小企業向け事業に関しては、特に、トレードファイナンス・運転資金融資が大幅な伸びを見せ、前年同期比の収益がバランスシート上、資産・負債項目ともに高い伸びを記録しました。

今期、コスト管理にはこれまでどおり慎重に取り組んでまいりましたが、約400名のRM(リレーションシップマネージャー)の雇用、支店インフラ整備の継続、ATMの性能向上、250台のATM追加、ブランド構築への投資など、事業への投資も実施いたしました。2010年度上半期の経費は、昨年下半年を僅かながら上回る見込みです。

コンシューマーバンキング部門のクレジットクオリティ(資産の質)は引き続き改善し、今期の不良債権処理費用は昨年下半年の3分の2程度を見込んでいます。

また、主に韓国、香港、台湾、シンガポールでは、昨年末から資産増加が進んでおり、その資産のほとんどが担保付商品で構成されています。

預金残高については増加傾向にあり、当座預金、普通預金ともにバランスの良い伸びを示しています。しかし、最近では特に、複数市場で定期預金事業における価格競争の激化が見られます。

ホールセールバンキング部門

ホールセールバンキング部門の業績は好調で、既存顧客との関係を強化し続けながら、高レベルの顧客収益を計上しています。

2010年度上半期におけるホールセールバンキング部門の収益については、前年同期比では横ばいであるものの、昨年下半年と比較すると、十分に2桁成長を確保できると予想しています。

2010年1～5月における顧客収益は、前年同期比で約20%の伸びを示しましたが、これは、ホールセールバンキング部門の総収益の約8割を計上しています。

また、これまで同様、ホールセールバンキング部門のコア事業は、コマースバンキングと為替関連取引であり、双方で顧客総収益の半分以上を占めています。

トレードファイナンス事業は、最近の競争激化に伴い利幅が縮小したにもかかわらず、昨年末から増加傾向にある取引量を反映し、昨年上半期以降、引き続き堅調な業績を上げています。キャッシュマネジメントサービス事業に関しては、マンドート(資金運用委託業務案件)を好調に獲得していることから、昨年末以降の取引量は増加傾向にあるものの、融資利幅の下げ圧力が続き、収益減となっています。貸出収益は取引量の大幅増加と堅調な利幅を反映して底堅い伸びを示しています。

コーポレートファイナンス事業の業績は非常に好調に推移しており、引き続き数多くの案件獲得が見込まれています。

第1四半期IMSで示唆したとおり、昨年上半期よりさらに激化した競争、スプレッドの縮小、ボラティリティの低下などで、特に、金融市場における自己取引による収益は、昨年上半期の高収益を下回る結果となりましたが、同年下半年と比べると高い伸びを示しています。

ここ数週間というものの、経済見通しに不透明さが増し、景況感が悪化したことから、顧客需要が低迷した商品があり、取引も全体的に不活発なものとなったことから、顧客収益、および自己取引による収益の伸びに影響を及ぼしました。

昨年上半期において、当行グループは、著しく不透明な外部環境に対応すべく、厳格なコスト管理を行うとともに、投資を手控えました。しかし、市場環境の改善に伴い、昨年下半年から今年度にかけて、商品開発力の向上と事業拡大のための営業要員と、サポート・管理部門要員増強を図るため、約450名を増員し、加えて、システムの規格化推進を目指した投資も実施し、人材と商品開発力の強化に積極的に取り組んでまいりました。そのため、今期におけるコスト増加率は収益の伸びを大幅に上回ると予想しています。

ホールセールバンキング部門におけるポートフォリオ全体のクレジット・クオリティ(信用の質)は引き続き高く、「早期警告」指標については昨年末より着実に改善しています。今日までの不良債権処理費用は、主に既存不良債権への貸倒引当金の積み増しから発生したものです。今年上半期における不良債権残高は、現在のところ昨年下半年より著しく減少すると予想しています。

ホールセールバンキング部門においては慎重に資産増加を図っているため、リスク加重資産(RWA)の増加については、今期も十分に抑制されています。

最後に

現在、当行グループの2010年度上半期の業績は好調に推移しています。利幅の縮小に見られるように、競争は激化していますが、コンシューマーバンキング・ホールセールバンキング両部門の営業収益は、増加傾向にあります。将来の成長を確かなものとするべく、当行グループは、引き続き投資。当行グループの事業基盤(ファンダメンタルズ)は大変堅固なものであり、不良債権残高も減少傾向にあります。また、事業拠点を置く市場ーアジア、アフリカ、中東の全域においても良好なポジションを維持しています。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Stephen Atkinson, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 7245
Ashia Razzaq, Investor Relations, Asia +852 28203958
Jonathan Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語での問い合わせは以下へご連絡ください。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9333

Ca.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できるとされる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご確認ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。